第１章　高等専門学校の目的

資料編

・資料索引

資料番号	資料名	ページ番号	関連資料
1－1－1	函館工業高等専門学校　学則(抜粋)	1-1	函館工業高等専門学校学則
1－1－2	教育目的･教育目標	1-1	H24 学校要覧
1－1－3	各学科の教育目標	1-2	H24 学校要覧
1－1－4	専攻科の教育目的	1-5	H24 学校要覧
1－1－5	専攻科課程各専攻の教育目的	1-5	H24 学校要覧
1－1－6	「複合型システム工学」教育プログラムの学習･教育目標	1-6	H24 学校要覧
1－1－7	専攻科学習･教育目標達成度評価確認表	1-8,9	H24 学校要覧
1－2－1	教育目標掲示物	1-10	教育目標 掲示物写真
1－2－2	学級ごとの教育目標周知実施状況	1-11	教務委員会 資料
1－2－3	新入生ガイダンス資料	1-12	新入生ガイダンス資料
1－2－4	専攻科ガイダンス資料	1-13	専攻科ガイダンス資料
1－2－5	専攻科説明会パンフレット	1-15	専攻科説明会パンフレット
1－2－6	新任教員に対する説明会案内	1-18	新任教員に対する説明会開催通知メール
1－2－7	学生に対するアンケート	1-19	アンケート
1－2－8	教職員に対するアンケート	1-20	アンケート
1－2－9	アンケート結果	1-21	
1－2－10	本校ウェブサイト	1-24	函館高専ウェブサイト
1－2－11	学校要覧配布先一覧(平成 24 年度)	1-27	総務係･学生係･入試担当資料
1－2－12	学校案内配布先一覧(平成 24 年度)	1-28	学生課入試担当資料

資料１－１－１

「函館工業高等専門学校　学則」（抜粋）

函館工業高等専門学校学則

昭和 37 年 4 月 1 日制定

第１　章　本校の目的

（目的）

第１条　本校は，教育基本法の精神にのっとり，及び学校教育法に基づき，深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成することを目的とする。

（省略）

（出典：函館工業高等専門学校学則）

参照 URL: http://www.hakodate-ct.ac.jp/~w-syomu/reiki_int/reiki_honbun/au05700011.html

資料１－１－２

「教育目的・教育目標」

教育目的

技術者に必要な実践的かつ専門的な知識，および技術を有する創造的な人材を育成すると共に実践的研究の水準向上に努め，道南地域唯一の総合的な技術系高等教育機関として均衡ある発展を図る。

教育目標

本校は優れた技術者を育成する一方，技術相談や共同研究を通じて，地域社会や地域企業の発展に貢献したいと考えています。本校は，実践的な技術者教育と地域に根ざした学校という特徴を活かして，大学とは異なる高等教育期間を目指します。本校は，地域，日本，世界のあらゆる分野で活躍するためには，以下の能力を備えた技術者が必要と考え，その育成を教育目標としています。

A.創造力と実行力をもった技術者

B.専門技術に関する基礎知識をもった技術者

C.情報技術を活用できる技術者

D.社会の歴史や文化，技術者倫理を理解して行動できる技術者

E.多面的なコミュニケーション能力をもった技術者

F.問題解決のためのデザイン能力をもった技術者

（出典：H24 学校要覧）

資料１－１－３

各学科の教育目標

「函館高専教育目標」

A: 創造力と実行力を持った技術者

B: 専門技術に関する基礎知識を持った技術者

C: 情報技術を活用できる技術者

D: 社会の歴史や文化，技術者倫理を理解して行動できる技術者

E: 多面的なコミュニケーションの能力を持った技術者

F: 問題解決のためのデザイン能力を持った技術者

［機械工学科］

1. 自主的に健康維持，増進を図ることができるとともに，集団の中での役割や責任を理解し，豊かな創造力でものづくりを実践できる技術者
2. 数学，自然科学および機械工学の主要分野(材料と機械の力学，エネルギーと流れ，情報と制御，加工と生産)に関する基礎知識を持ち，それを活用できる技術者
3. 機械設計，製造，計測制御，解析およびネットワークなど，専門技術に関する基礎知識を基にコンピュータを活用することができる技術者
4. 地球的視野で，歴史，文化，地理，政治，経済に関する教養を持ち，倫理を理解して行動できる技術者
5. 自分の考えを論理的な文書にまとめ，成果をプレゼンテーションできるとともに，基礎的な英語コミュニケーションができる技術者
6. 基礎技術に関する知識を総合的に活用し，システムの設計や問題解決に応用できる技術者

[電気電子工学科]

1. 自ら考えたり議論したりすることでアイデアを創出し，ものづくりや調査研究などを計画的に遂行できる技術者
2. 各種スポーツの実践を通して心身の健康の維持・増進を図ることができる技術者
3. 数学，自然科学および電気電子工学に関する基礎的な知識や技術を持った技術者
4. 情報処理の基礎技術を理解し，電気電子工学分野における技術的な問題解決や成果報告に役立てることができる技術者
5. 国際的視野に立って歴史，文化，地理，政治・経済などを理解できる技術者
6. 人間社会や地球環境に配慮した倫理を理解できる技術者
7. 自分の考えおよび技術的な成果を文書や口頭で発表し，説明することができる技術者
8. 基礎的な英語コミュニケーションができる技術者
9. 電気電子工学分野の技術的な課題を解決するために，適正な方法を選択あるいは創造できる技術者

［情報工学科］

1. 情報工学分野の実験実習を通して新たな実験やシステム設計・開発などを，自ら企画・立案・実現できる創造力豊かな技術者で，かつ自主的に健康維持・増進を図るとともに，集団の中での役割や責任を理解し行動できる技術者
2. 数学，自然科学および情報工学の基礎知識を有し，それを様々な場面で活用できる技術者
3. 情報工学分野において専門技術に関する基礎知識を基に，コンピュータを活用した設計・開発やデータ処理ができる技術者
4. 地球的視野に立ち，歴史・文化・地理・政治・経済に関する教養を持ち，倫理を理解して技術を適用することができる技術者
5. 自分の考えを論理的な文書にまとめ，技術成果をプレゼンテーションできるとともに，基礎的な英語コミュニケーション能力を持った技術者
6. システムを構成する技術についての基礎知識を持ち，その知識を有機的に結合して新たなシステムの設計・構築やそれを問題解決のために応用できる技術者

[物質工学科]

1. 集団の中での役割や責任を理解し，豊かな創造力で物質工学科の分野の，ものづくりを実践できる技術者
2. 数学，自然科学および物質工学の主要分野に関する基礎知識を有し，それを活用できる技術者
3. 物質工学の専門分野にコンピュータを活用することができる技術者
4. 地球的視野に立ち，歴史・文化・地理・政治・経済に関する教養を持ち，倫理を理解して技術を適用することができる技術者
5. 自分の考えを論理的な文書にまとめ，技術成果をプレゼンテーションできると共に，基礎的な英語コミュニケーション能力を持った技術者
6. システムを構成する要素技術についての知識を持ち，その知識をシステムの設計・問題解決のために応用できる技術者

[環境都市工学科]

1. チームの一員としての役割と責任を理解して自主的・継続的に行動できる技術者
2. 数学，自然科学や土木・環境技術などの環境都市工学に関する基礎的な知識を持ち，それを活用できる技術者
3. 設計製図や卒業研究などの環境都市工学に関する技術にコンピュータを活用でき，情報処理の基本技術について理解している技術者
4. 国際社会の歴史，文化，地理，政治・経済などについて理解した上で，環境都市工学の果たす役割や自然に及ぼす影響を認識して，地域社会の発展に貢献するなど，技術者としての倫理と責任を自覚して行動できる技術者
5. 自分の考えを論理的な文章にまとめ，成果をプレゼンテーションできるとともに，基礎的な英語コミュニケーションができる技術者
6. 卒業研究や設計製図，創成科目を通じて，問題解決に向かって総合的な知識を動員し，関連技術を組み合わせることで具体的な結果の方向を見出すことができる技術者

（出典：H24 学校要覧）

資料１－１－４

専攻科の教育目的

専攻科の目的
専攻科は，高等専門学校における教育の基礎の上に，精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授研究し，もって広く産業の発展に寄与する人材を育成することを目的とする。

（出典：H24 学校要覧）

資料１－１－５

「専攻科課程各専攻の教育目的」

1）生産システム工学専攻

生産システム工学専攻では，主として機械工学科，電気電子工学科および情報工学科を卒業した学生を対象に，高専の５年間の教育で修得した基礎知識を基盤として，プレゼンテーションや英語によるコミュニケーションの能力を高め，生産システムに不可欠な機械工学技術，電気電子工学技術，情報処理技術の専門性を深めること，さらにこれらの専門技術を複合させるとともに，PBL(Project Based Learning)方式の複合型実験やインターンシップ，特別研究などを通して実践力や解析能力を養うことによって，ロボットや情報通信システム，エネルギーシステム等の開発・設計・製造などに活かす力を備えた実践的技術者を育成することを教育目的とする。

2）環境システム工学専攻

環境システム工学専攻では，主として物質工学科および環境都市工学科を卒業した学生を対象に，高専の５年間の教育で修得した基礎知識を基盤として，プレゼンテーション能力や英語によるコミュニケーションの能力を高め，環境システムに不可欠な土木・環境工学技術，化学・生物工学技術の専門性を深めること，さらにこれらの専門技術を複合させるとともに，PBL(Project Based Learning)方式の複合課題実験やインターンシップ，特別研究などを通して実践力や解析能力を養うことによって，材料の開発や，社会基盤，リサイクルシステム等の計画・設計・施工などに活かす力を備えた実践的技術者を育成することを教育目的とする。

（出典：H24 学校要覧）

資料１－１－６

「複合型システム工学」教育プログラムの学習・教育目標

A．創造力と実行力を持った技術者

(A-1) 自ら仕事を計画して継続的に実行し，まとめ上げることができる。

(A-2) チームの一員としての役割と責任を理解して自主的に行動できる。

(A-3) ものづくりのための創意工夫をすることができる。

B．専門技術に関する基礎知識を持った技術者

(B-1) 数学および物理や化学，生物などの自然科学の基礎知識を持っている。

(B-2) 基礎工学（設計･システム系，情報・論理系，材料･バイオ系，力学系，社会技術系）の基礎知識を持っている。

(B-3) 主となる専門分野の基礎知識，およびそれらと複合するための他の専門分野の基礎知識を持っている。

(B-4) 実験や実習，演習を通して専門工学における実践的な基礎技術を身につけている。

C．情報技術を活用できる技術者

(C-1) 情報処理を行うためのハードウエアやソフトウエアの基礎技術について理解している。

(C-2) データの計算処理やグラフ化，設計・製図などにコンピュータを活用することができる。

(C-3) 情報の収集，整理およびプレゼンテーションに，コンピュータなどの情報技術を用いることができる。

D．社会の歴史や文化，技術者倫理を理解して行動できる技術者

(D-1) 国際社会の多様な歴史的背景や文化的価値観を理解できる。

(D-2) 科学技術が人間や社会，自然環境および未来の世代に与える影響を理解し，技術者の役割と責任を説明できる。

(D-3) 技術者としての実務を理解するとともに，社会に貢献することの意義を理解している。

E．多面的なコミュニケーション能力を持った技術者

(E-1) 技術的課題について自分の考えをまとめ，他者と討論できる。

(E-2) 技術的成果を正確な日本語を用いて論理的な文書にまとめることができる。

(E-3) 技術的成果を的確にプレゼンテーションすることができる。

(E-4) 国際的なコミュニケーションを行うための基礎的な英語理解力および表現力を持っている。

Ｆ．問題解決のためのデザイン能力を持った技術者

(F-1) システムを構成する要素技術についての知識を持ち，その知識をシステムの組み上げに応用できる。

(F-2) 問題解決のために複数の解決手法を考案し，それらを評価してその中から最適な解決策を提案できる。

(F-3) 複数の分野の専門技術を組み合わせて，要求を満たすシステムを提案できる。

（出典：H24 学校要覧）

資料　１－１－７

専攻科学習・教育目標達成度評価確認表

平成24年度入学生用　　**学習・教育目標達成度評価確認表**　　（機械工学科卒業生）

生産システム工学専攻　　学籍番号 _____　氏名 _____

学習・教育目標		達成度評価項目	達成度中間評価 H24.4月	H24.10月	H25.4月	H25.10月	H26.2月	備考	総合評価
A	A-1	「生産システム工学創造実験(専1)②」において，設計から製作までの計画を評価する．(計画の評価が60%以上)							
		「複合創造実験(専2)②」において，設計から製作までの計画を評価する．(計画の評価が60%以上)							
創造力と実行力		「特別研究Ⅰ(専1)④」において，研究計画を立てて継続して実行したことを研究計画書および研究日誌により評価する．研究計画書が研究日誌に添付されており，研究時間が100時間以上．							
		「特別研究Ⅱ(専2)⑧」において，研究計画を立てて継続して実行し，まとめたことを研究計画書および研究日誌により評価する．研究計画書が研究日誌に添付されており，研究時間が200時間以上．							
		「卒業研究(本科5年)⑧」において，継続して実行したことを研究日誌により評価する．研究時間が(単位数×20時間)以上．							
	A-2	「生産システム工学創造実験(専1)②」において，貢献度評価が60%以上．							
		「複合創造実験(専2)②」において，貢献度評価が60%以上．							
	A-3	「生産システム工学創造実験(専1)②」の中で，創意工夫をした点についての評価が60%以上．							
		「複合創造実験(専2)②」の中で，創意工夫をした点についての評価が60%以上．							
B	B-1								
	数学	「応用数学Ⅰ(M4)②」							
		「応用数学Ⅱ(M4)②」							
専門技術の		「応用解析学Ⅰ(専1)②」						6単位以上修得	
基礎知識		「応用解析学Ⅱ(専1)②」							
		「数値解析論(専2)②」							
	自然科学	「応用物理(M4)②」							
		「伝熱工学(M5)①」							
		「電気磁気学特論(専S1)②」							
		「固体物性論(専1)②」						4単位以上修得	
		「資源地球化学(専1)②」							
		「生物工学基礎(専1)②」							
	B-2								
	設計・システム系	「自動制御(M5)②」							
		「機械システム設計法(M4)②」							
		「機械システム工学(M5)①」						6単位以上修得	
		「システム工学特論(専1)②」							
		「景観デザイン設計(専1)②」							
	情報・論理系	「論理回路(M5)①」							
		「ディジタル信号処理(専S2)②」							
		「画像処理工学(専S1)②」						2単位以上修得	
		「ネットワーク特論(専S2)②」							
	材料・バイオ系	「材料創製プロセス工学(M5)①」							
		「生体材料学(M5)①」							
		「物質工学通論(専1)②」[1]							
		「材料科学(専1)②」						4単位以上修得	
		「腐食防食工学(専1)②」							
		「環境微生物工学(専2)②」							
		「金属物性論(専S1)②」							
	力学系	「材料力学(M4)②」							
		「機械力学(M5)①」							
		「量子力学(専1)②」						5単位以上修得	
		「流体力学特論(専S1)②」							
		「熱流体力学(専S2)②」							
	社会技術系	「工学倫理(M5)①」						1科目以上修得	
		「技術者倫理(専1)②」							
	B-3								
	主となる専門分野	「機構学(M4)②」							
		「エネルギー変換工学(M5)②」							
		「計測工学(M4)①」							
		「機械工学総合演習(M4)①」							
		「真空工学(専S2)②」						8単位以上修得	
		「振動工学(専S1)②」							
		「アドバンスト制御工学(専S2)②」							
		「計測システム特論(専S2)②」							
		「知能機械(専S2)②」							

	複合するための他の専門分野	「電気工学概論(M4)②」						9単位以上修得	
		「電気工学概論(M5)②」							
		「生産プロセス工学(専S1)②」							
		「バイオメカニクス(専S2)②」							
		「電力システム工学(専S2)②」							
		「電子回路特論(専S1)②」							
		「固体電子工学(専S1)②」							
		「半導体デバイス工学(専S2)②」							
		「電磁波工学特論(専S1)②」							
		「情報工学通論(専1)②」[1]							
		「物質工学通論(専1)②」[1]							
		「土木工学通論(専1)②」[1]							
	B-4 実験	「機械設計製図(M4)(2.5)」							
		「機械工学実験(M4)②」							
		「機械工学実験(M5)②」							
		「特別実験(専1)②」において，取り組み姿勢と報告書により評価する．(60%以上)							
		「総合演習(専2)②」において，報告書により評価する．(60%以上)							
C	C-1	「情報処理演習(M4)①」						2科目以上修得	
		「数値解析(M5)①」							
		「シミュレーション工学(専1)②」							
情報技術	C-2	「特別研究Ⅱ(専2)⑧」の発表の中で，コンピュータを用いてデータの計算処理やグラフ化や設計・製図を行ったか否かを評価する．							
	C-3	「特別研究Ⅱ(専2)⑧」の成果をパワーポイントを用いて発表できたか否かを評価する．							
		「特別研究Ⅰ(専1)④」または「特別研究Ⅱ(専2)⑧」において，コンピュータを用いて情報検索を行った事例を「特別研究による学習・教育目標の達成項目の確認表」に記載させ，これにより評価する．							
D	D-1	「現代社会(本科5)②」						2科目以上修得	
		「比較文学論(専2)②」							
		「マーケティング(専2)②」							
広い視野	D-2	「科学技術史概論(専2)②」						1科目以上修得	
		「都市工学(専2)②」							
		「環境マネジメント(専1)②」							
		「工学倫理(M5)①」						1科目以上修得	
		「技術者倫理(専1)②」							
	D-3	「インターンシップ(専1)④」において，実務を理解していることを発表会で評価する．(60%以上)							
		「インターンシップ(専1)④」において，技術者として社会に貢献することの意義に関するレポートの評価が60%以上．							
E	E-1	「特別研究Ⅱ(専2)⑧」において，発表会の質疑応答の評価が60%以上．							
	E-2	「特別研究Ⅱ(専2)⑧」において，論文の評価が60%以上．							
		学協会における発表の予稿が予稿集に掲載されたことにより達成したと評価する．							
コミュニケーション能力	E-3	「インターンシップ(専1)④」において，インターンシップ報告会のプレゼンテーションの評価が60%以上．							
		「特別研究Ⅱ(専2)⑧」において，発表会のプレゼンテーションの評価が60%以上．							
		学協会で発表を行うことにより達成したと評価する．							
	E-4	「ビジネス英語Ⅰ(専1)②」							
		「ビジネス英語Ⅱ(専2)②」							
F	F-1	「生産システム工学創造実験(専1)②」の要素技術に関する評価が60%以上．							
		「複合創造実験(専2)②」の要素技術に関する評価が60%以上．							
デザイン能力	F-2	「生産システム工学創造実験(専1)②」の中で，工夫・改善の評価が60%以上．							
		「複合創造実験(専2)②」の中で，工夫・改善の評価が60%以上．							
		「特別研究Ⅰ(専1)④」または「特別研究Ⅱ(専2)⑧」において，試行錯誤の過程を「特別研究による学習・教育目標の達成項目の確認表」に記述させ，これにより評価する．(60%以上)							
	F-3	「生産システム工学創造実験(専1)②」の成果において，複合技術に関する評価が60%以上．							
		「複合創造実験(専2)②」の成果において，複合技術に関する評価が60%以上．							

[1] 機械工学通論，電気工学通論，情報工学通論，物質工学通論，土木工学通論は，該当する達成項目に対して1単位としてカウントする．

※他の専攻で開設されている選択科目で修得した単位は，8単位を限度として，当該専攻における単位として認定することができる．

取得単位数							
専攻科で62単位以上，「複合型システム工学」教育プログラム全体で124単位以上．							
一般科目　必修　4単位							
一般科目　選択　2単位以上							
専門共通科目　必修・選択　6単位							
専門共通科目　選択　14単位以上							
専門展開科目　必修　24単位							
専門展開科目　選択　12単位以上							
5群6科目							
①設計・システム系科目の中から1科目以上を修得							
②情報・論理系科目の中から1科目以上を修得							
③材料・バイオ系科目の中から1科目以上を修得							
④力学系科目の中から1科目以上を修得							
⑤社会技術系科目の中から1科目以上を修得							
①～⑤の科目の中から6科目以上修得							

教員からのコメント

資料１－２－１

「教育目標掲示物」 校内5ヶ所に掲示

函館高専の教育目標

A. 創造力と実行力を持った技術者
B. 専門技術に関する基礎知識を持った技術者
C. 情報技術を活用できる技術者
D. 社会の歴史や文化、技術者倫理を理解して行動できる技術者
E. 多面的なコミュニケーション能力を持った技術者
F. 問題解決のためのデザイン能力を持った技術者

「複合型システム工学」プログラム　学習・教育目標

本プログラムで修得する専門工学の知識と能力とは、主となる専門分野（機械工学系、電気電子工学系、情報工学系、物質工学系、環境都市工学系のいずれかの分野）と他の専門分野の基礎知識、およびこれらの知識を複合して問題を解決するための能力をいう。

A. 創造力と実行力を持った技術者
(A-1) 自ら仕事を計画して継続的に実行し、まとめ上げることができる。
(A-2) チームの一員としての役割と責任を理解して自主的に行動できる。
(A-3) ものづくりのための創意工夫をすることができる。

B. 専門技術に関する基礎知識を持った技術者
(B-1) 数学および物理や化学、生物などの自然科学の基礎知識を持っている。
(B-2) 基礎工学（設計・システム系、情報・論理系、材料・バイオ系、力学系、社会技術系）の基礎知識を持っている。
(B-3) 主となる専門分野の基礎知識、およびそれらと複合するための他の専門分野の基礎知識を持っている。
(B-4) 実験や実習、演習を通して専門工学における実践的な基礎技術を身につけている。

C. 情報技術を活用できる技術者
(C-1) 情報処理を行うためのハードウエアやソフトウエアの基礎技術について理解している。
(C-2) データの計算処理やグラフ化、設計・製図などにコンピュータを活用することができる。
(C-3) 情報の収集、整理およびプレゼンテーションに、コンピュータなどの情報技術を用いることができる。

D. 社会の歴史や文化、技術者倫理を理解して行動できる技術者
(D-1) 国際社会の多様な歴史的背景や文化的価値観を理解できる。
(D-2) 科学技術が人間や社会、自然環境および未来の世代に与える影響を理解し、技術者の役割と責任を説明できる。
(D-3) 技術者としての実務を理解するとともに、社会に貢献することの意義を理解している。

E. 多面的なコミュニケーション能力を持った技術者
(E-1) 技術的課題について自分の考えをまとめ、他者と討論できる。
(E-2) 技術的成果を正確な日本語を用いて論理的な文書にまとめることができる。
(E-3) 技術的成果を的確にプレゼンテーションすることができる。
(E-4) 国際的なコミュニケーションを行うための基礎的な英語理解力および表現力を持っている。

F. 問題解決のためのデザイン能力を持った技術者
(F-1) システムを構成する要素技術についての知識を持ち、その知識をシステムの組み上げに応用できる。
(F-2) 問題解決のために複数の解決手法を考案し、それらを評価してその中から最適な解決策を探索できる。
(F-3) 複数の分野の専門技術を組み合わせて、要求を満たすシステムを探索できる。

（出典：教育目標掲示物）

資料１－２－２

「学級ごとの教育目標周知実施状況」

学習教育目標周知実施状況（平成23年度）

本科の講義時間中に，学習教育目標の説明を行う。第1～3学年において，「函館高専教育目標」・「学科教育目標」第4～5学年において，「函館高専教育目標」・「学科教育目標」・「複合型システム工学プログラム学習教育目標」を，科目担当教員により学生に説明し周知する。

機械工学科

学年	函館高専教育目標		学科教育目標		複合型システム工学プログラム学習教育目標	
	実施教員	実施日時	実施教員	実施日時	実施教員	実施日時
1	浜	4月14日7時間目	浜	4月14日7時間目	—	—
2	川上	4月14日7時間目	川上	4月14日7時間目	—	—
3	近藤	4月14日1時間目	近藤	4月14日1時間目	—	—
4	浜	4月13日7時間目	浜	4月13日7時間目	浜	4月13日7時間目
5	近藤	4月11日5時間目	近藤	4月11日5時間目	切明	4月14日1時間目

電気電子工学科

学年	函館高専教育目標		学科教育目標		複合型システム工学プログラム学習教育目標	
	実施教員	実施日時	実施教員	実施日時	実施教員	実施日時
1	森田	4月8日6時間目	森田	4月8日6時間目	—	—
2	柳谷	4月15日1時間目	柳谷	4月15日1時間目	—	—
3	柳谷	4月14日1時間目	柳谷	4月14日1時間目	—	—
4	山村	4月25日7時間目	山村	4月25日7時間目	山村	4月25日7時間目
5	石井	4月14日7時間目	石井	4月14日7時間目	石井	4月14日7時間目

情報工学科

学年	函館高専教育目標		学科教育目標		複合型システム工学プログラム学習教育目標	
	実施教員	実施日時	実施教員	実施日時	実施教員	実施日時
1	後藤等	4月12日5時間目	後藤等	4月12日5時間目	—	—
2	佐藤恵一	4月22日7時間目	佐藤恵一	4月22日7時間目	—	—
3	後藤等	4月14日1時間目	後藤等	4月14日1時間目	—	—
4	小山慎哉	4月20日1時間目	小山慎哉	4月20日1時間目	小山慎哉	4月20日1時間目
5	河合博之	4月21日3時間目	河合博之	4月21日3時間目	河合博之	4月21日3時間目

物質工学科

学年	函館高専教育目標		学科教育目標		複合型システム工学プログラム学習教育目標	
	実施教員	実施日時	実施教員	実施日時	実施教員	実施日時
1	鹿野弘二	4月13日7時間目	鹿野弘二	4月13日7時間目	—	—
2	伊藤穂高	4月12日3時間目	伊藤穂高	4月12日3時間目	—	—
3	宇月原貴光	4月15日7時間目	宇月原貴光	4月15日7時間目	—	—
4	寿雅史	4月18日1時間目	寿雅史	4月18日1時間目	寿雅史	4月18日1時間目
5	小原寿幸	4月19日7時間目	小原寿幸	4月19日7時間目	小原寿幸	4月19日7時間目

環境都市工学科

学年	函館高専教育目標		学科教育目標		複合型システム工学プログラム学習教育目標	
	実施教員	実施日時	実施教員	実施日時	実施教員	実施日時
1	藤原隆	4月21日7時間目	藤原隆	4月21日7時間目	—	—
2	渡辺力	4月21日7時間目	渡辺力	4月21日7時間目	—	—
3	澤村秀治	4月19日7時間目	澤村秀治	4月19日7時間目	—	—
4	大久保孝樹	4月18日7時間目	大久保孝樹	4月18日7時間目	大久保孝樹	4月18日7時間目
5	宮武誠	4月19日1時間目	宮武誠	4月19日1時間目	宮武誠	4月19日1時間目

（出典：教務委員会資料）

資料１－２－３

「新入生ガイダンス」

平成 24 年度　新入生ガイダンス

4月5日(木)		
8:30	集合（各ホームルーム）	
8:35	大講義室へ移動	
8:50	全体研修(1)	
	・ 研修概要説明	
	・ 校長講話	
	・ 学習に関すること,校訓と教育目標	
9:35	休憩	
9:40	全体研修(2)	
	・ 学校生活に関すること	
	・ 学生寮に関すること	
10:30	休憩	
10:35	全体研修(3)	
	・ キャリア教育に関すること	
	・ 学習支援室に関すること	
	・ 学生相談室に関すること	
	・ 校歌練習	
	・ 諸注意	
11:45	ホームルームへ移動	
	避難経路の確認	時間配分等は学級
12:15	昼食・休憩	担任に一任します
13:05	学級研修	
	・ 自己紹介	
	・ 役員等選出	
	・ 質疑応答	
	・ アンケート記入	
	休憩(適宜休憩)	
	学科研修	
	・ 各学科に関すること	
	・ 学習上の注意	
	・ レポート作成	
15:25ころ	福利棟(保健室・学生相談室・食堂・売店)を案内体育館へ誘導(解散)	
	※解散後，新入生は，体育館でジャージ等の受け取り(手提げ袋，上靴を持参)	

（出典：新入生ガイダンス資料）

資料１－２－４

「専攻科ガイダンス資料」

平成２４年度函館高専専攻別ガイダンスについて（1 年生）

○　平成２４年４月４日（水）　１３：００～
専攻科棟ゼミナール室３　生産システム工学専攻１年（３階）
ゼミナール室４　環境システム工学専攻１年（３階）

○担当：石井先生（生産システム工学専攻１年担任）
小玉先生（環境システム工学専攻１年担任）

１．「複合型システム工学プログラム」履修の手引き
２．履修の手続きについて
・履修計画（シラバスおよび履修の手引き参照）
・履修科目届け締め切り：４月２０日（金）
３．「学習履歴書」，「学習・教育目標達成度評価確認表」の作成
・資料：　学習履歴書，学習・教育目標達成度評価確認表，４，５学年成績表
４．特別研究のテーマと指導教員の決定について
・テーマ概要（シラバス参照）
・主指導教員と副指導教員
５．専攻科インターンシップについて
・インターンシップの流れ（シラバス参照）
６．身体測定について・・・問診表等一式
７．その他
・専攻科生留意事項
・学生証・名札・名札入れ・ストラップ・専攻科棟カードキー等

平成２４年度函館高専専攻別ガイダンスについて（第２学年）

○　平成２４年４月４日（水）
専攻科棟ゼミナール室１　生産システム工学専攻２年　１３：００～（2 階）
ゼミナール室２　環境システム工学専攻２年　１３：００～（2 階）

○　担当：祐延先生（生産システム工学専攻２年担任）
上野先生（環境システム工学専攻２年担任）

１．シラバスの説明及び修正について
２．「複合型システム工学」教育プログラムの学習・教育目標の説明
３．科目の履修について
・資料：　履修科目届け，再履修科目届，専攻科１年時成績表
・履修科目届け締め切り：　４月２０日（金）
４．達成度評価確認表の確認
５．未来大学との単位互換および特別講義の追加について
・平成 24 年度公立はこだて未来大単位互換科目
・英語による専門授業の特別講義
６．学位授与申請について
資料：　小論文試験参考資料
７．大学院推薦および表彰の基準について
大学院推薦：　推薦基準資料参照
優秀学生賞：　修了までの期間成績が特に優秀で且つ他の学生の模範となったと認められる者（「優」の数で判定する）
特別研究プレゼンテーション優秀賞：　特別研究発表会の評価が最も高い者
特別賞：　特筆に値する努力・貢献等のあった者及び団体
８．平成２４年度前期授業時間割
９．年間行事予定表
１０．教科書リスト
１１．身体測定について・・・問診表等一式
１２．その他

（出典：専攻科ガイダンス資料）

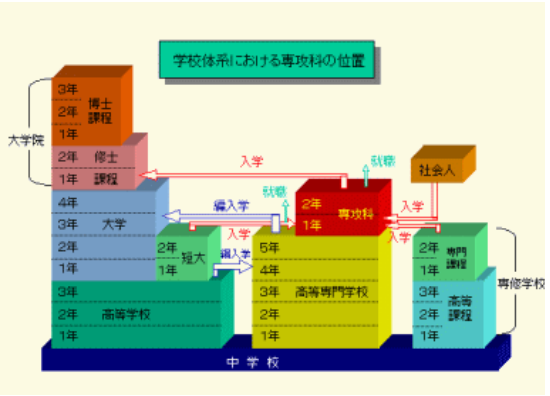
資料１－２－５

「専攻科説明会パンフレット」

専 攻 科 の 制 度

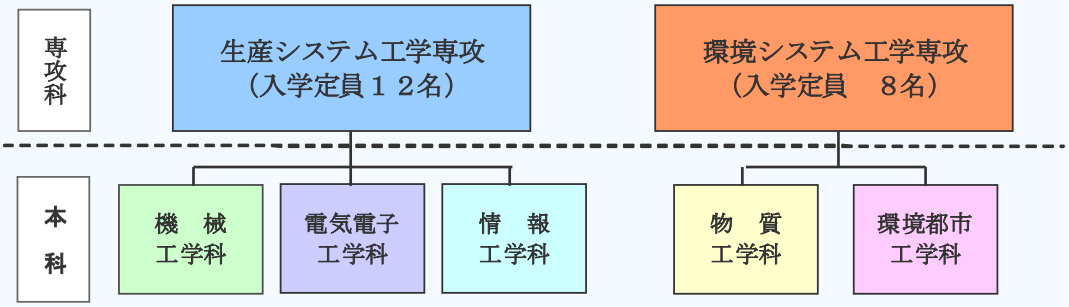
高専の専攻科は、本科５年間の技術者教育を基盤とし、さらに２年間の教育によって、より高度な教育・研究指導を行います。合計７年間の一貫した技術者教育によって、「ものづくりに強い」などの高専教育の利点を活かし、理論と実践を両立させた幅広く活躍できる技術者の養成を目指します。

専攻科を修了すると、大学評価・学位授与機構の審査を受けて、大学卒業者と同じ学士の学位を取得することができます。大学卒業者と同等の資格で就職できるとともに、大学院の受験資格を得ることができます。



函 館 高 専 専 攻 科 の 教 育 体 系

函館高専の専攻科では、システム工学専攻と環境システム工学専攻の２専攻をおき、本科の学科構成にとらわれない幅広い能力を身につけることができます。なお、両専攻とも全学生が下記の「複合型システム工学」プログラムの履修者となります。



「複合型システム工学」
（JABEE認定）

函館高専では、大学(学部)に相当する学科課程の第4学年から専攻科第2学年までのカリキュラムで構成される、技術者教育プログラム「複合型システム工学」を設けています。

この技術者教育プログラムは、JABEE（日本技術者教育認定機構）の認定を受けており、専攻科を修了し学士(工学)の学位を取得すると、修習技術者（技術士補）として認められ、国家資格である技術士の第一次試験が免除されます。

「複合型システム工学」教育プログラムの学習・教育目標（大項目）

Ａ．創造力と実行力を持った技術者
Ｂ．専門技術に関する基礎技術を持った技術者
Ｃ．情報技術を利用できる技術者
Ｄ．社会の歴史や文化、技術者倫理を理解して行動できる技術者
Ｅ．多面的なコミュニケーション能力を持った技術者
Ｆ．問題解決のためのデザイン能力を持った技術者

本校専攻科の修了者全員が学習・教育目標のすべての項目を達成しています。

カリキュラムの特徴

本校専攻科は、理論とともにものづくりの技術について学ぶカリキュラム構成となっています。

特別研究

ひとつのテーマについて2年間研究を行ない、学会での発表を行います。これは大学院修士課程に近い水準です。

特別研究発表会における研究発表

特別実験

各専攻の分野に関連する実験に取り組み、幅広い応用力を養成します。

インターンシップ

1年生全員が8－9月の3週間、主に近隣の企業において実際の課題に取り組む中で、職場での責任やコミュニケーションの重要性などを学ぶことを目標にしています。

また、企業が直面している課題など、企業ニーズの発掘や問題解決などを視野に入れた実践的な教育を進めており、それを契機として共同研究への発展も目指しています。

創造実験・複合創造実験
マイスター（特専教授）の活用による実践的「ものづくり伝承プログラム」

創造実験・複合創造実験

創造実験では、「課題解決型学習(PBL, Project Based Learning)」を取り入れ、関連分野の課題に対する生産システム・環境システムの専攻ごとの取り組みと、異なる分野の課題に対する両専攻を融合した取り組みを行います。与えられた問題を解決するために必要な総合的な能力を育成します。

ものづくり伝承プログラム

企業の最前線で活躍した実績を持つ技術者をマイスターとして委嘱し、本校の専任教員と連携しながらPBL方式による実践的な教育を実施しています。学生とマイスターが１つのチームを結成し、地域企業等のニーズに取組むことで、企業人として備えるべき能力を身に付けることができます。このような教育を通じて、デザイン教育・共同教育も見据えた現場感覚を持った人材の育成を目指します。

地域企業等のニーズによるテーマの例

- ○観光案内用のイカロボットの製作
- ○路面電車シミュレーターの製作
- ○魚に優しい魚道の提案
- ○函館山夜景ビューアの製作
- ○環境啓発教材の開発
- ○大沼公園内の土地の総合的活用プランの提案
- ○道南杉からの木炭の品質の安定化

PBL成果物の空港ロビーへの設置

マイスターによる指導を受けての実験風景

在学中のイベント

国際交流事業

平成17年度から、米国・サンフランシスコ州立大学へ専攻科生代表を派遣し、特別研究の内容について英語で発表・討論をするイベントが毎年行なわれています。また、平成21年4月には、韓国・釜慶大学校工科大学へ専攻科生代表を派遣し、韓国人学生との協同ものづくり体験交流事業を実施しました。

サンフランシスコ州立大学における特別研究発表（平成20年度）

学会発表、専攻科研究発表・交流会

専攻科に在学中、最低1回は自分の研究を学会で発表することが義務付けられています。とても緊張することですが、無事に発表を終えた後の爽快感は格別です。

また、平成21年度からは道内専攻科の2年生全員を集めての研究発表・交流会が行われており、他校の学生と交流する貴重な機会となっています。

道内高専専攻科研究発表・交流会での研究発表（平成21年度）

専攻科の修了要件

①学士の取得
②６２単位の修得
③ＪＡＢＥＥ認定「複合型システム工学」教育プログラムの修了
④TOEICスコア400点以上の取得
⑤学協会での特別研究発表

修了要件は簡単とはいえませんが、企業や大学院からは修了生に対して高い評価を受けています。

専攻科を修了することで得られるメリット

①大学卒業資格である「学士」の学位を取得できます。

②高専卒業よりも就職先や業務内容の選択肢が広くなることや、大学編入者や学部卒業生に比べて高い実践的能力を身につけることができるなどのメリットがあります。

③JABEE(日本技術者教育認定機構)で認定された「複合型システム工学」教育プログラムを修了し、国家資格である「技術士」の1次試験が免除され、「技術士補」となる資格を得ることができます。

修了生の主な進路

就職先企業等

＜生産システム工学専攻＞
◇ ｵﾘﾝﾊﾟｽﾒﾃﾞｨｶﾙｼｽﾃﾑｽﾞ（株）
◇ (株)ダイナックス
◇ 中外製薬工業(株)
◇ (株)ニコン
◇ 富士通(株)
◇ (株)森精機製作所
◇ (株)カネカ
◇ (株)日立国際電気
◇ (株)NTTファシリティーズ
◇ 日本精工(株)
◇ タカノ(株)
◇ (株)日立ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ&ｻｰﾋﾞｽ
◇ いすゞエンジニアリング(株)
◇ (株)日本デジタル研究所

＜環境システム工学専攻＞
◇ (株)SEC
◇ (株)新興プランテック
◇ 三井共同建設ｺﾝｻﾙﾀﾝﾄ(株)
◇ 日本化学産業(株)
◇ 宮地建設工業(株)
◇ 和光純薬工業(株)
◇ 日東電工(株)
◇ 日本電話施設(株)
◇ サイエンステクノロジー(株)
◇ 旭電化工業(株)
◇ JR日本貨物鉄道(株)
◇ 浅井ゲルマニウム(株)
◇ 関西保冷工業(株)
◇ サンコーコンサルタント(株)

進学先大学院

＜両専攻＞
◇ 北海道大学大学院
◇ 長岡技術科学大学大学院
◇ 横浜国立大学大学院
◇ 東京大学大学院
◇北陸先端科学技術大学院大学
◇公立はこだて未来大学大学院
◇ 豊橋技術科学大学大学院
◇ 神戸大学大学院
◇ 京都工芸繊維大学大学院
◇ 東北大学大学院

資料１－２－６

「新任教員に対する説明会」

平成２４年４月３日

新任教員　各位
関係　各位

教 務 主 事
学 生 主 事
寮 務 主 事
教育点検実施委員会委員長

新任教員に対する説明会について

本校へのご着任を心から歓迎いたします。
さて，本校に１日も早く慣れていただくために，標記の会を計画いたしました。お忙しい中とは思いますが，是非ご出席下さいますようお願い申し上げます。

記

１．日　時　　平成２４年４月４日（水）　教員連絡会（１５時～）終了後
２．場　所　　共用会議室
３．内　容
(1) 学校長挨拶
(2) 各委員会説明
①教務委員会関係説明　　（３０分程度）
②学生委員会関係説明　　（２０分程度）
③寮務委員会関係説明　　（１５分程度）
④JABEE 関係説明　　（３０分程度）

※平成２４年度の「授業計画書」，「学生生活の手引き」及び「寮生活のしおり」をご持参下さい。

４．出席者：学校長，新任教員３名（佐々木先生・下郡先生・永家先生）
教務主事，学生主事，寮務主事，後藤教育点検実施委員会委員長

（出典：新任教員に対する説明会開催通知メール）

資料１－２－７

「学生に対するアンケート」

Ⅰ 本校の目的，教育方針，教育目標について

Ⅰ－１．本校は，下記の目標を掲げて教育を行っています。このことを知っていますか？（該当する項目に○印を付けてください，以下同様）

（本校の目的）
本校は，教育基本法の精神にのっとり，及び学校教育法に基づき，深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成することを目的とする。

(1) 知っている　　(2) 知らない

Ⅰ－２．質問Ⅰ－１で(1)と答えた方にお伺いします。この目的がどこに書かれているか知っていますか？知っていれば，どこに書いてあるか以下の項目からお選びください。（複数回答でかまいません）

（教育目的）
技術者に必要な実践的かつ専門的な知識，および技術を有する創造的な人材を育成すると共に実践的研究の水準向上に努め，道南地域唯一の総合的な技術系高等教育機関として均衡ある発展を図る。
（教育目標）
A．創造力と実行力をもった技術者
B．専門技術に関する基礎知識をもった技術者
C．情報技術を活用できる技術者
D．社会の歴史や文化，技術者倫理を理解して行動できる技術者
E．多面的なコミュニケーション能力をもった技術者
F．問題解決のためのデザイン能力をもった技術者

(1) 学校案内(2) 学校要覧(3) 函館高専ホームページ(4) 学生生活の手引き
(5) その他（印刷物等をご記入下さい：　　）

Ⅰ－３．本校では，下記の教育目的・教育目標のもとに学校運営を行っています。このことを知っていますか？
(1)知っている　　(2) 知らない

Ⅰ－４．質問Ⅰ－３で(1)と答えた方にお伺いします。この「本校の教育目的・教育目標」がどこに書かれているか知っていますか？知っていれば，どこに書いてあるか以下の項目からお選びください。（複数回答でかまいません）
(1) シラバス　　(2) 学校案内　　(3) 学校要覧　　(4) 函館高専ホームページ
(5) 学生生活の手引き　　(6) その他（印刷物等をご記入下さい：　　）

Ⅰ－５．上記の目的や教育目標について，入学時のガイダンスやホームルーム活動などで説明を受けたことはありますか？
(1) ある　　(2) ない，または覚えていない

資料１－２－８

「教職員に対するアンケート」

回答者：　教員　　職員　　非常勤講師（該当する項目に○印を付けてください。）

Ⅰ 本校の目的，教育方針，教育目標について

Ⅰ－１．本校は，下記の目標を掲げて教育を行っています。このことを知っていますか？（該当する項目に○印を付けてください，以下同様）

（本校の目的）
本校は，教育基本法の精神にのっとり，及び学校教育法に基づき，深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成することを目的とする。

(1) 知っている　　(2) 知らない

Ⅰ－２．質問Ⅰ－１で(1)と答えた方にお伺いします。この目的がどこに書かれているか知っていますか？知っていれば，どこに書いてあるか以下の項目からお選びください。（複数回答でかまいません）

(1) 学校案内　　(2) 学校要覧　　(3) 函館高専ホームページ　　(4) 学生生活の手引き

(5) その他（印刷物等をご記入下さい：　　）

Ⅰ－３．本校では，下記の教育目的・教育目標のもとに学校運営を行っています。このことを知っていますか？

（教育目的）
技術者に必要な実践的かつ専門的な知識，および技術を有する創造的な人材を育成すると共に実践的研究の水準向上に努め，道南地域唯一の総合的な技術系高等教育機関として均衡ある発展を図る。

（教育目標）
A．創造力と実行力をもった技術者
B．専門技術に関する基礎知識をもった技術者
C．情報技術を活用できる技術者
D．社会の歴史や文化，技術者倫理を理解して行動できる技術者
E．多面的なコミュニケーション能力をもった技術者
F．問題解決のためのデザイン能力をもった技術者

(1) 知っている　　(2) 知らない

Ⅰ－４．質問Ⅰ－３で(1)と答えた方にお伺いします。この「本校の教育目的・教育目標」がどこに書かれているか知っていますか？知っていれば，どこに書いてあるか以下の項目からお選びください。（複数回答でかまいません）

(1) シラバス　　(2) 学校案内　　(3) 学校要覧　　(4) 函館高専ホームページ

(5) 学生生活の手引き　　(6) その他（印刷物等をご記入下さい：　　）

Ⅰ－５．上記の目的や教育目標について，入学時のガイダンスやホームルーム活動などで説明を受けたことはありますか？

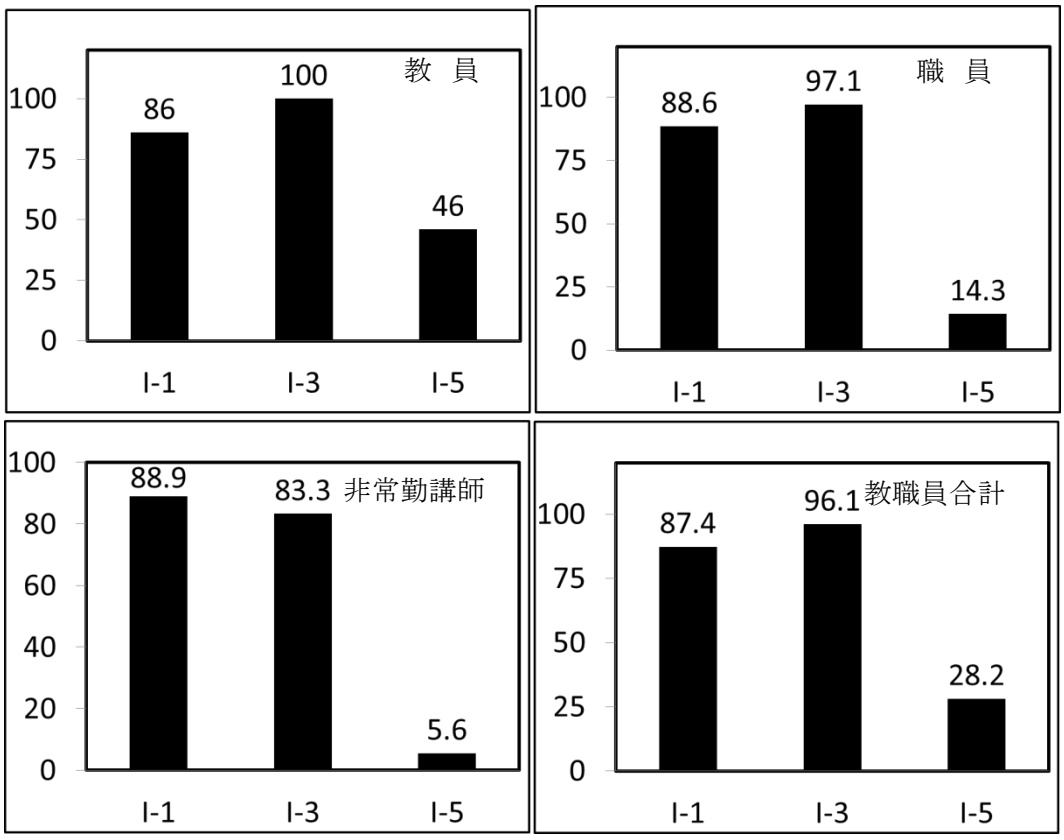
(1) ある　　(2) ない，または覚えていない

資料１－２－９

「アンケート結果」

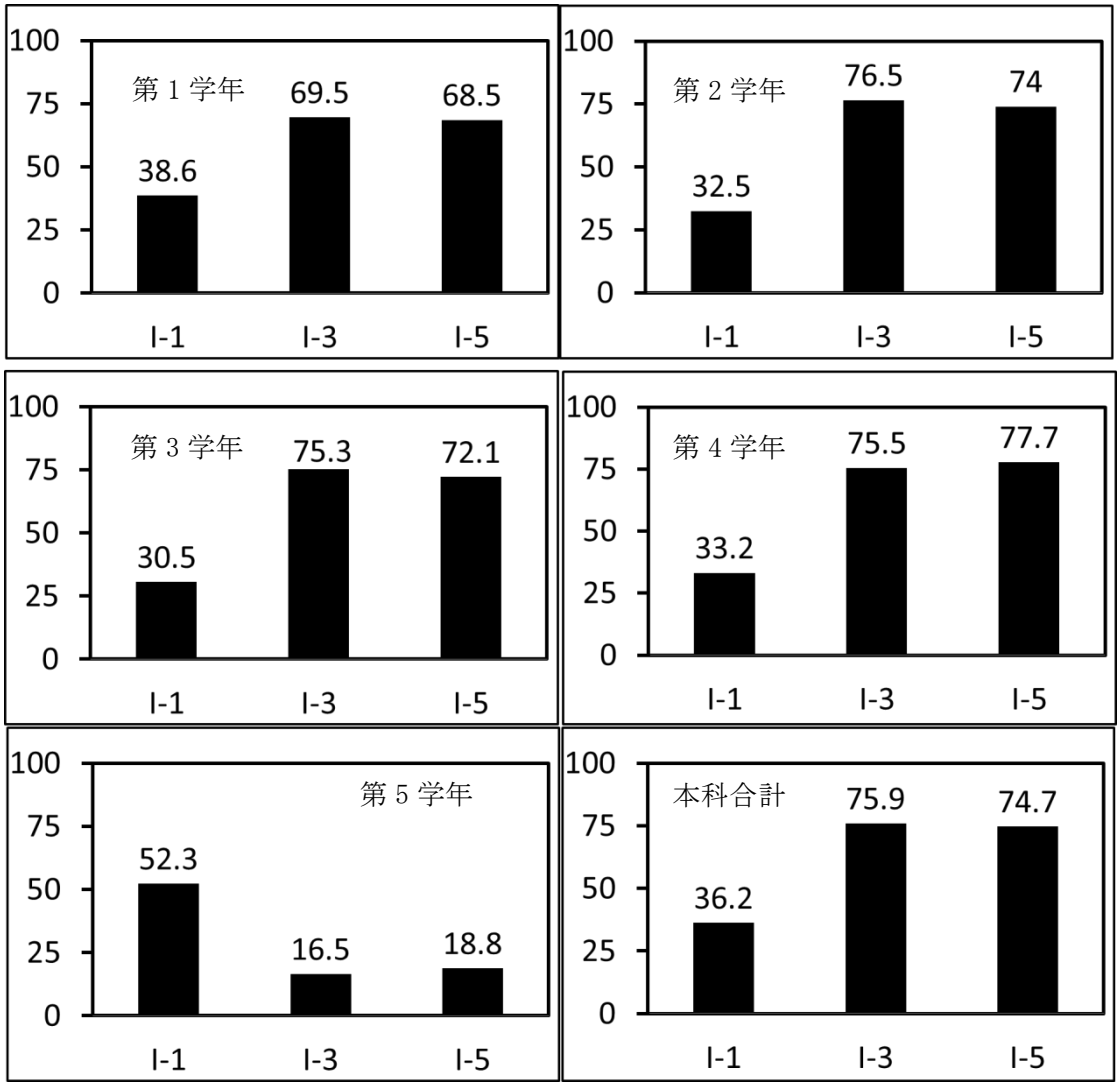
・教職員に対するアンケート結果

知っていると答えた人の割合(%)



「学生に対するアンケート結果」

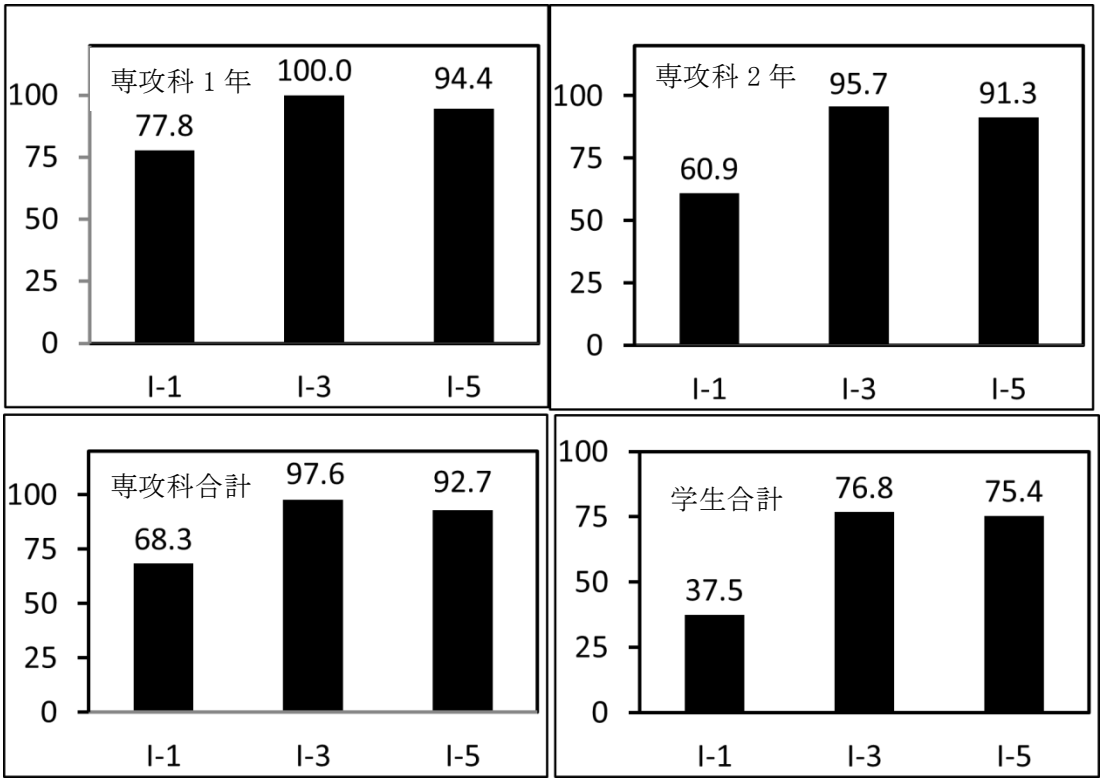
知っていると答えた人の割合(%)



有効回答数　第 1 学年 197，第 2 学年　200，第 3 学年　190，第 4 学年　220，第 5 学年　176

「学生に対するアンケート結果」

知っていると答えた人の割合(%)



有効回答数　専攻科 1 年　18，専攻科 2 年　23，専攻科全体　41，学生全体　1024

資料１－２－１０

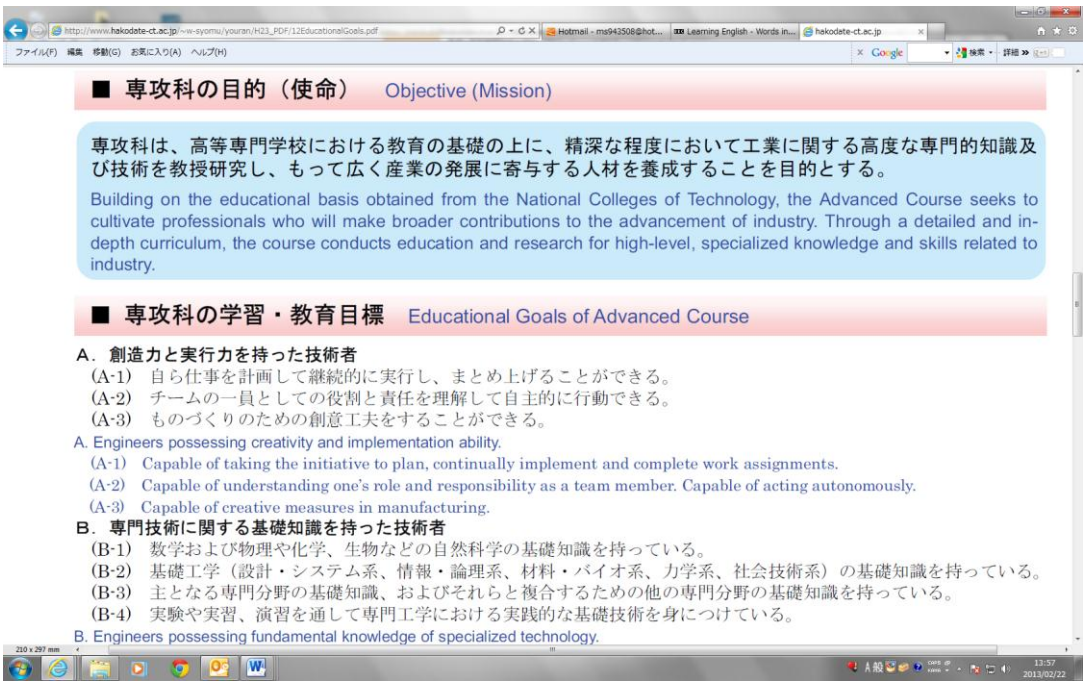
「本校ウェブサイト」

（トップページ：http://www2.hakodate-ct.ac.jp/）

「本校の目的，教育目的」

（本校ウェブサイト：http://www.hakodate-ct.ac.jp/~w-syomu/youran/H23_PDF/02EducationalPolicy.pdf）

「専攻科の目的」



■ 専攻科の目的（使命）　Objective (Mission)

専攻科は、高等専門学校における教育の基礎の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授研究し、もって広く産業の発展に寄与する人材を養成することを目的とする。

Building on the educational basis obtained from the National Colleges of Technology, the Advanced Course seeks to cultivate professionals who will make broader contributions to the advancement of industry. Through a detailed and in-depth curriculum, the course conducts education and research for high-level, specialized knowledge and skills related to industry.

■ 専攻科の学習・教育目標　Educational Goals of Advanced Course

A．創造力と実行力を持った技術者
(A-1)　自ら仕事を計画して継続的に実行し、まとめ上げることができる。
(A-2)　チームの一員としての役割と責任を理解して自主的に行動できる。
(A-3)　ものづくりのための創意工夫をすることができる。
A. Engineers possessing creativity and implementation ability.
(A-1)　Capable of taking the initiative to plan, continually implement and complete work assignments.
(A-2)　Capable of understanding one's role and responsibility as a team member. Capable of acting autonomously.
(A-3)　Capable of creative measures in manufacturing.
B．専門技術に関する基礎知識を持った技術者
(B-1)　数学および物理や化学、生物などの自然科学の基礎知識を持っている。
(B-2)　基礎工学（設計・システム系、情報・論理系、材料・バイオ系、力学系、社会技術系）の基礎知識を持っている。
(B-3)　主となる専門分野の基礎知識、およびそれらと複合するための他の専門分野の基礎知識を持っている。
(B-4)　実験や実習、演習を通して専門工学における実践的な基礎技術を身につけている。
B. Engineers possessing fundamental knowledge of specialized technology.

本校ホームページ：http://www.hakodate-ct.ac.jp/~w-syomu/youran/H23_PDF/12EducationalGoals.pdf）

「専攻科の教育目的」

函館高専専攻科の教育目的

本校の専攻科は平成16年4月に設置されました。機械、電気電子、情報工学科を基礎とする「生産システム工学専攻」および、物質、環境都市工学科を基礎とする「環境システム工学専攻」から構成されています。

専攻科では技術者倫理や社会系科目、数学や自然科学の基礎について学び、技術者としての基盤を確立します。そして、5年間の高専教育で学んだ専門知識をさらに深めると同時に、出身学科の異なる学生が一緒に議論しながら他学科の分野についても学び、互いに協力して実験や演習を行います。さらに3-4週間のインターンシップを通して複合領域で活躍できる実践的な技術者を育成します。また、本科の4,5学年と合わせて「複合型システム工学」教育プログラム」を設定し、国際的に通用する技術者の育成を目指しています。

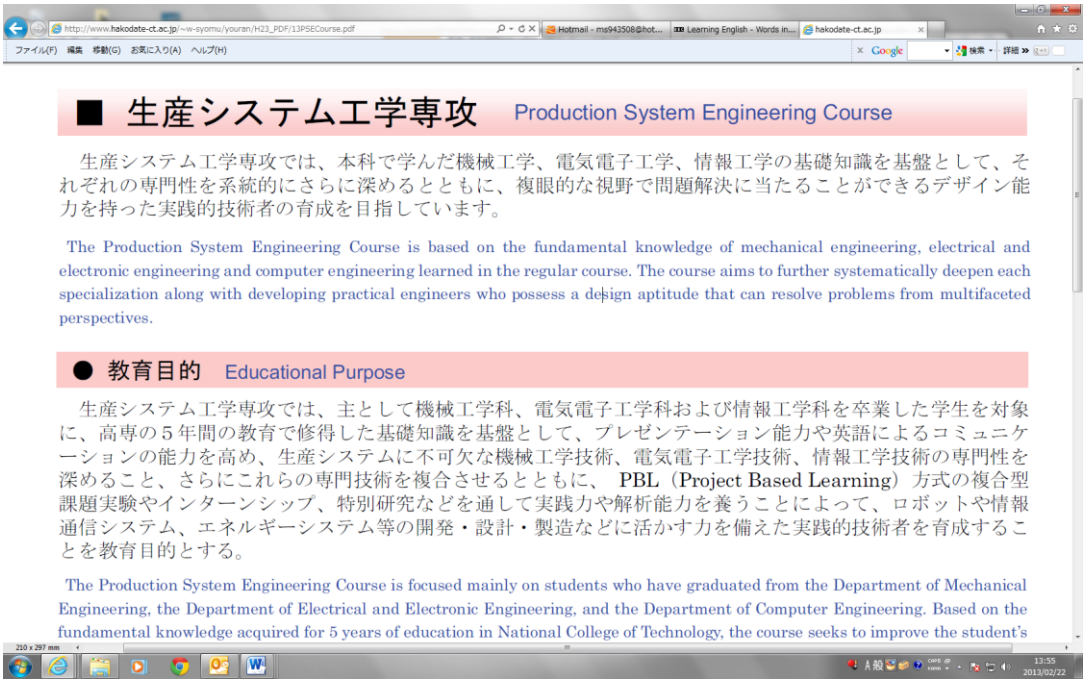
› 各専攻の概要

生産システム工学専攻

（本校ホームページ：http://www2.hakodate-ct.ac.jp/subject/senkou/aim/）

「専攻科各専攻の教育目的」

生産システム工学専攻



■ 生産システム工学専攻　Production System Engineering Course

生産システム工学専攻では、本科で学んだ機械工学、電気電子工学、情報工学の基礎知識を基盤として、それぞれの専門性を系統的にさらに深めるとともに、複眼的な視野で問題解決に当たることができるデザイン能力を持った実践的技術者の育成を目指しています。

The Production System Engineering Course is based on the fundamental knowledge of mechanical engineering, electrical and electronic engineering and computer engineering learned in the regular course. The course aims to further systematically deepen each specialization along with developing practical engineers who possess a design aptitude that can resolve problems from multifaceted perspectives.

● 教育目的　Educational Purpose

生産システム工学専攻では、主として機械工学科、電気電子工学科および情報工学科を卒業した学生を対象に、高専の５年間の教育で修得した基礎知識を基盤として、プレゼンテーション能力や英語によるコミュニケーションの能力を高め、生産システムに不可欠な機械工学技術、電気電子工学技術、情報工学技術の専門性を深めること、さらにこれらの専門技術を複合させるとともに、PBL（Project Based Learning）方式の複合型課題実験やインターンシップ、特別研究などを通して実践力や解析能力を養うことによって、ロボットや情報通信システム、エネルギーシステム等の開発・設計・製造などに活かす力を備えた実践的技術者を育成することを教育目的とする。

The Production System Engineering Course is focused mainly on students who have graduated from the Department of Mechanical Engineering, the Department of Electrical and Electronic Engineering, and the Department of Computer Engineering. Based on the fundamental knowledge acquired for 5 years of education in National College of Technology, the course seeks to improve the student's

（本校ホームページ：http://www.hakodate-ct.ac.jp/~w-syomu/youran/H23_PDF/13PSECourse.pdf）

環境システム工学専攻

■ 環境システム工学専攻　Environmental System Engineering Course

環境システム工学専攻では、本科で学んだ物質工学、環境都市工学の基礎知識を基盤として、それぞれの専門性を系統的にさらに深めるとともに、複眼的な視野で問題解決に当たることができるデザイン能力を持った実践的技術者の育成を目指しています。

The Environmental System Engineering Course is based on the fundamental knowledge of material and environmental engineering and civil engineering learned in the regular course. The course aims to further systematically deepen each specialization along with developing practical engineers who possess a design aptitude that can resolve problems from multifaceted perspectives.

● 教育目的　Educational Purpose

環境システム工学専攻では、主として物質工学科および環境都市工学科を卒業した学生を対象に、高専の５年間の教育で修得した基礎知識を基盤として、プレゼンテーション能力や英語によるコミュニケーションの能力を高め、環境システムに不可欠な土木・環境工学技術、化学・生物工学技術の専門性を深めること、さらにこれらの専門技術を複合させるとともに、PBL（Project Based Learning）方式の複合型課題実験やインターンシップ、特別研究などを通して実践力や解析能力を養うことによって、材料の開発や、社会基盤、リサイクルシステム等の計画・設計・施工などに活かす力を備えた実践的技術者を育成することを教育目的とする。

（本校ホームページ：http://www.hakodate-ct.ac.jp/~w-

資料１－２－１１

「学校要覧配布先一覧（平成24年度）」

配布先	配布部数	本校担当部署
高専	60	総務係
大学(道内・市内)	10	総務係
技術科学大学	2	総務係
文部科学省	2	総務係
高専機構	5	総務係
文教ニュース社	1	総務係
官庁通信社	1	総務係
函館市広報課	1	総務係
新聞社	4	総務係
名誉教授	35	総務係
特別功績教員	4	総務係
中学校	200	入試担当
就職関係	200	学生係
来校者	150	総務係・入試担当
入試関連行事配布用	200	入試担当

（出典：総務係・学生係・入試担当資料）

資料１－２－１２

「学校案内配布先一覧（平成24年度）」

配布先	配布部数	本校担当部署
中学校送付	1,800	入試担当
進学塾関係団体	500	入試担当
校長会（函館・青森）	70	入試担当
学校説明会（函館・青森・札幌	400	入試担当
一日体験学習会	300	入試担当
入学者選抜等に関する懇談会配付	700	入試担当
学校見学会	350	入試担当
合格者対象学科説明会	300	入試担当
イベント時の自由配付	100	入試担当
ＰＴＡ本校訪問	150	入試担当
中学生本校訪問	200	入試担当
本校関係職員	130	入試担当
予備	200	入試担当

（出典：学生課入試担当資料）